

季刊

4月・5月・6月

博物館だより

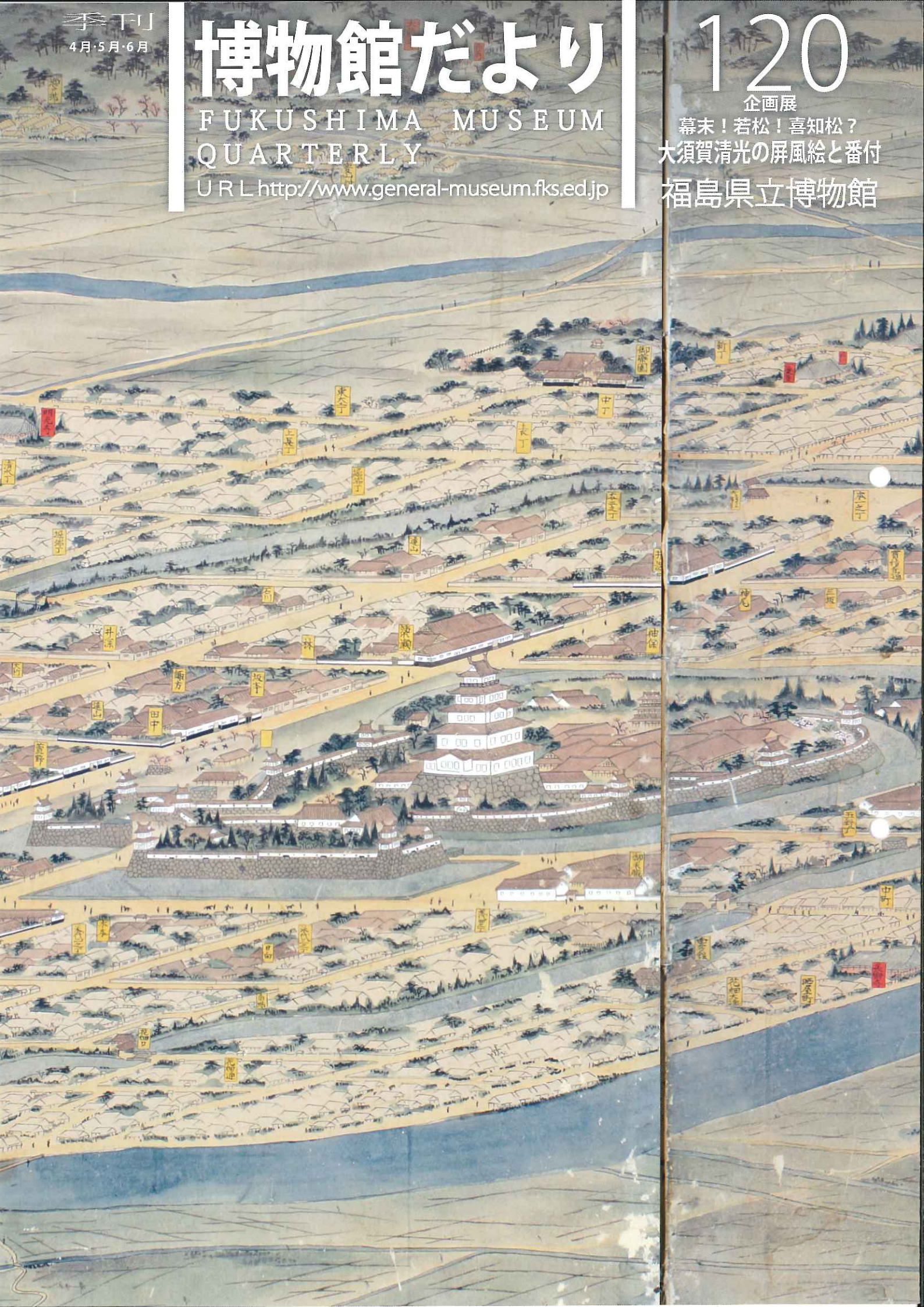
FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

120

企画展

幕末！若松！喜知松？
大須賀清光の屏風絵と番付
福島県立博物館





幕末！若松！喜知松？ 大須賀清光の屏風絵と番付

幕末の会津を調べつくした一人の男。その名を大須賀喜知松といいます。

名前通り「知る」ことに何よりの喜びを感じていたのであろうその人は、会津の人・物・風景を情熱的に調査し、知り得た事実を絵画、書籍、摺り物などに仕上げ、自在に表現しました。

生まれは商家のようですが、本人は若松城下郊外に住み、絵師を生業としたようです。彼の作品で最も知られたものに「若松城下絵図屏風」があります。高い建物も空撮技術もない時代に、鳥のように空から若松城下を見下ろす構図を頭の中で組み立て、描き出しました。

本展では、大須賀清光（皎齋）という名で知られた絵師としての活躍をご紹介しますと共に、喜知松が知識をもとに紡ぎ出した番付などの出版資料もあわせてご覧いただけます。さあ、あなたも大須賀清光の世界へ。

展示構成と内容

プロローグ 謎の絵師誕生

会津の美しい風景や文化の華やきを世に残したのに、自分のことはあまり残さなかった清光。数少ない資料から清光の背景をたどります。

第一章

本領発揮、若松城下絵図屏風

大須賀清光と言えば若松城下絵図屏風。現在、江戸時代の若松城下の姿は、ほぼ清光作品を通してイメージされています。県内初公開の屏風もあわせてご覧下さい。

第二章

注文された屏風たち —さまざま画題の大作—

戦陣図屏風や大名の江戸城登城風景を描いた珍しい屏風、商家の繁栄を描いた屏風、めでたい祝いの席の屏風など、バリエーションに富んだ画題の大作をご堪能下さい。

第三章

挿絵から番付まで！ —ゆかりの小作品—

若松城下の文人名鑑『鶴城風雅集』、会津何でもランキング「若松緑高名五幅対」、会津生まれの教訓書『万民心の鑑』など、清光ゆかりの小作品を集めました。

第四章

同時代の文人たち

清光と同時代に若松の文化を盛り上げた人々をご紹介します。番付にランクインしたあの人も。

エピローグ

最期の仕事

戊辰戦争後の作品があまり見られない清光。最晩年の仕事をクローズアップします。

■ 開 催 概 要	会期	平成28年4月23日(土)～6月12日(日)
	休館日	月曜日(5月2日は開館します)
	会場	福島県立博物館 企画展示室
	観覧料	一般・大学生500(400)円、高校生300(240)円、小・中学生200(160)円、※()内は20名以上の団体料金
	その他	会期中に一部展示替を行います ※5月16日(月)の休館日に入れ替えます



若松城下絵図屏風(しろはく古地図と城の博物館富原文庫蔵)

【記念講演会】(申込み不要、参加無料)

江戸城登城風景図屏風をよみとく ―江戸の名所 下馬先― とは何か―

日時 6月12日(日) 13時30分～15時 講堂

講師 学習院女子大学教授 岩淵令治氏

【関連イベント】(すべて申込み不要、参加無料)

めぐせ江戸! 清光の絵で道中すごろく (こども向け/参加型)

日時 5月3日(火・祝) ①10時30分～12時 体験学習室

②13時30分～15時 体験学習室

清光の描いた「江戸街道三十七次」をすごろくにして遊びます。若松城下から江戸をめざすよ!

みんなで仕上げる清光作品 若松城下ドリムプラン (こども向け/参加型)

日時 5月4日(水・祝) 13時30分～15時 実習室

清光の描いた若松城下の風景に色をつけていきます。工夫して仕上げよう。

仕上がった作品は企画展開催中館内に掲示します。ゴールデンウィークの思い出に。

江戸の番付で良妻チエツク (一般向け/参加型)

日時 5月15日(日) 13時30分～14時30分 実習室

講師 学芸員 阿部綾子

江戸時代の良妻・悪妻番付を素材に、自分や身近な人を採点してみましよう。江戸時代に生まれていたら…あなたは何点!?

清光の挿絵で読む! メイドイン会津の教訓書 (一般向け/聴講型)

日時 5月28日(土) 13時30分～14時30分 講堂

講師 学芸員 阿部綾子

初の福島県出身知事・日下義雄のお父さんが江戸時代に作った教訓書をご紹介します。福島県知事を育てた? 教訓書を、清光の「精巧」な挿絵で読んでみましょう。

【展示解説会】(申込み不要、要企画展観覧料)

日時 4月23日(土) 10時～11時

5月15日(日) 14時30分～15時30分 ※イベント終了後の開催

5月28日(土) 14時30分～15時30分 ※イベント終了後の開催

6月11日(土) 13時30分～14時30分

■ 主な展示作品

- ・若松城下絵図屏風 (しろはく古地図と城の博物館富原文庫蔵)
- ・若松城下絵図屏風 (当館蔵・高瀬家旧蔵)
- ・蛤御門の変図屏風 (会津若松市蔵)
- ・江戸城登城風景図屏風 (国立歴史民俗博物館蔵)
- ・岩代国会津地理之図 (早稲田大学図書館蔵)
- ・若松城下絵図 (会津若松市立会津図書館蔵)
- ・賤ヶ岳戦陣図屏風 (二本松市歴史資料館蔵)
- ・長尾家屋敷繪圖屏風 (個人蔵)
- ・松下群鶴図屏風 (個人蔵)

福島県立博物館30周年を迎えて

昭和六十一年十月十八日に開館した福島県立博物館は本年十月をもって、開館三十周年を迎えることとなりました。「十年一昔」といいますから開館したのは「三昔」前ということになります。この間、福島県立博物館の運営に御尽力いただきました関係者、旧職員の皆様、応援いただきました県民の皆様、心より御礼を申し上げます。私事でいえば、開館時には二十八歳、展示準備の力仕事をしながら「二、三十年後も同じような事をしている、体はついていくだろうか」と冗談を飛ばしていました。冗談ではなくなったものの何とか展示ケースを押し動かしながら続けているところです。

さて、個人的にこの三十年間を振り返ると、博物館の意義を御理解いただくために無我夢中だった最初の十年間、ある程度、落ち着いて博物館の意味を考えた次の十年、社会情勢の変化、予算の削減



開館当初の小彼岸桜

に苦闘した最後の十年という区分ができるように思います。予算面であれば、予算が潤沢であるから比例して価値の高い仕事が達成できたかという点も必ずしもそう言い切れない面もありますが、「無い袖は振れない」のも事実です。もとより、生涯

学習施設である博物館は利用者である県民の皆さんとの関係が重要であることは言うまでもありません。各種講座の実施、出前授業の実施などともに博物館友の会活動との連携・協力が重要です。特に古文書愛好会、化石鉱物探検隊等の継続した活動には頭が下がる思いです。このような自主学習に学芸員がどのように関わることが今後の博物館活動のヒントを与えてくれるような気がします。

福島県の直営館である福島県立博物館には外部評価の術がありません。反省の機会がなく、「やりっ放し」のきらいがあつたなかで、平成十九年に「博物館の使命」を策定し、平成二十年度から五年間の中期目標を公表したことは大きな一歩であつたと思いますが、自己評価はあまり乗り気にならないものです。事業のバランス、メリハリ等を考える上では避けて通れないからです。

平成二十三年三月十一日の東日本大震災は博物館の活動にも大きな影響を与えました。このような非常時に博物館に何ができるかが、正面から問われたからです。文化財レスキュー活動への参画、文化庁の資金援助を受けた「はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト」、「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」などの諸活動を現在も継続中です。その内容については展示活動等で公表されますので、是非、その成果をご覧いただければと思います。

三十年を経てさまざまな面で老朽化も課題となつてきています。建物、施設の老朽化はもとより、常設展の大規模展示替えがなされていない点が最大の問題と考えられます。学術的な発見と進歩が加速度的に進む昨今において、三十年前の教材を

使い続けることはすでに限界に達していることは明らかです。ポイント展と称し、資料の展示替え等を実施しているものの、現在の展示構成ではテーマ自体を変更することは困難です。大規模な展示替えにはそれなりの予算措置が不可欠ですが、進めざるを得ない大きな課題といえます。学芸員の老朽化？

も進んでいます。ここ数年の間に開館に関わった学芸員が現役を引退し、博物館の運営は第二世代に委ねられることとなります。「最近の若い者は…」という言葉はおそらく縄文時代から言われ続けていると思いますし、若手の学芸員（そんなに若くないかもしれませんが）は少なくとも私などよりはるかに優秀と考えられますので、心配はいらないと思います。

さて、思いつくままに開館三十周年を迎えるの感想を述べてきましたが、平成二十八年度には三十周年を記念するとともに、これまで支えてくださった方々に感謝の気持ちを込めて、展示やさまざまなイベントを実施する予定です。皆様には是非、足を運んでいただき、共に三十年を振り返っていただければと思います。

学芸課長 田中敏



2015年 見事に花を咲かせる小彼岸桜に30年の歳月を感じる

福島県立博物館開館30周年記念事業

1986年に開館した福島県立博物館は、2016年10月に開館30周年を迎えます。

この30年間、福島県の歴史・自然の調査・研究、資料の収集、保存、展示などの活動を重ねてきました。そして、2011年以降は東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故後の福島の実状と課題を伝える資料等の収集や作品の制作、福島の実状と課題を共有し考える文化的な場の創出を行ってきました。

福島県立博物館には、福島県の自然・文化の豊かさを伝え、福島の今と未来を考える文化ストックが、豊かに集まっています。

開館30周年を期にそれを大放出。開館30周年の記念の年となる2016年度の一年間を通して、様々な形でみなさんと共有する場を設けます。

福島県立博物館の開館30周年。福島と出会いに、学びに。福島を知りに、考えに。ぜひ福島県立博物館にお越しください。



【展示】

博物館が一番得意とするアウトプット。それは展示です。

2016年度は、1本の企画展と1本の特別展、4本の特集展を行います。幕末・明治の会津の絵師が伝える当時の会津の姿、福島県立博物館に寄贈された資料から見る南極の自然、日本のお宝・文化財、福島県立博物館が誇る収蔵資料、震災遺産とはま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果。2016年度の、30周年の福島県立博物館ならではのラインナップです。どれもお見逃しなく。

○企画展

「幕末・若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」

○特集展

「南極の自然と南極観測」

○特別展

「新たな国民のたからー文化庁購入文化財展ー」

○特集展

「収蔵庫からこんにちはー福島県立博物館収蔵名品展ー」

○特集展 1

「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」

○特集展 2

「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」

「震災遺産を考える」

【イベント】

福島県立博物館のイベントには福島との出会いがたくさん潜んでいます。

福島県内各地で守り伝えてきた伝統の技の数々。地域に育まれた福島の食。会津若松・東山の芸妓さんたちの芸の高さ。会津に春を告げる彼岸獅子。30年前の名画をご覧ください。30周年だからこそその企画も。

30年間の博物館活動の成果を表からも裏からも楽しく体感いただくイベントも年間を通して行います。

○作って！見て！感じる！ふくしま技の世界

○けんばく煮売茶屋

○けんばく感謝祭 1

ー東山芸妓さんと祝うけんばく30年ー

○けんばく感謝祭 2

ー博物館の新たな門出を獅子ステップで祝おうー

○けんばく懐かし映画祭ー30年前のあの名画ー

○のぞいてみよう！けんばくの裏側

○けんばく暗闇探検隊

○けんばく川柳くひねってみました！

○探検！けんばく七不思議

○おめでとうけんばく！開館30周年記念式典

○開館30周年記念対談「言葉の力 文化の力 復興の力」

*イベントは2016年3月時点での予定を含みます。詳細は福島県立博物館ホームページ等でお伝えします。ご確認ください。

【イメージ形成】

30周年記念の一年をみなさんにお伝えし、福島県立博物館を楽しみ、一緒に祝い育てる取り組みも行います。みなさんにも福島県立博物館の30周年をお祝いいただけたいです。

○けんばくラジオ

(2016年5月く2017年2月、FM会津で毎月2回放送予定)

○福島県立博物館ロゴ公募

【開館30周年イメージカラー】

福島県立博物館の周囲の高遠桜(小彼岸桜)は、江戸時代前期の会津藩主・保科正之が青年期を過ごした高遠の名高い桜を、開館当時に高遠との友好の象徴として分苗していただいたものです。30年の時を経て見事に成長した福島県立博物館の高遠桜は、濃紅の花を毎年咲かせ多くの方に愛されています。開館30周年のイメージカラーは高遠桜の色。高遠桜のつぼみが膨らむ4月からスタートする開館30周年の一年間、福島県立博物館を彩る予定です。



「震災から五年を迎えて ～それでも文化の力を信じてみたい～」



紺野美沙子さんをお迎えして

本年度の館長講座は、四月から十二月まで九回に亘り「司馬遼太郎の東北紀行」と題した講義をお送りしてきた。新年一月から三月は内容を切り換えて、東日本大震災を考える講座「震災から五年を迎えて」をお送りする。

その第一弾として、一月二十一日(木)、女優で国連開発計画(UNDP)親善大使でもある紺野美沙子さんをお迎えして赤坂館長と対談を行った。

紺野さんの母方の祖父は須賀川市出身ということもあり、福島県とはゆかりが深い。震災後は「朗読」を通して被災地を支援し続けてこられた。

はじめに、紺野さんから国連開発計画の活動に伴って訪れた貧困地域の紹介があり、「貧困ながらも人が豊かに生きる姿を見て、本当の幸せって何なのだろうか？」と強く感じた」とお話しいただいた。また、震災被災地を訪れる中で、「限られた時間の中で必要とされる人のために自分の役割を果たすことが大切」と感じ、自分のできる「朗読」の可能性に改めて気付かされた、と語った。新美南吉の「デンデンムシノカナシミ」と井上ひさしの「きらめく星座」を朗読してくださり、その上で、「『文化の力』とは『想像する力』なのではないか、支援するということとは、相手の気持ちを想像して寄り添っていくことなのではないか」というお話しをいただいた。

また、館長との対談では「会津という地の文化力はとても高い。でも磐越西線にもストーブル車があつて真っ白い景色の中で熱燗でも飲めるといいですね。」と冗談めいた提案もいただいた。さらに「たくさんの人たちに影響を与えるピュアな力は地域に溢れている。若者が持つピュアな力で再生・復興を果たしてほしい。」と語られた。

館長は「日本には貧しいながらも文化を楽しむ享受する伝統があった。しかし現代社会は経済的に裕福になつてはいるものの幸せを甘受している人は少ないのではないか。もう一度伝統的モラルを学

び直す時期が来ると思う。そこに地域と共にある博物館が何か出来ると思う。そういう博物館を創りたい。紺野さんもずっと応援してくれるでしょう。」と結んだ。

イベントレポート

体験学習「昔の道具体験」

小学校三・四年生の社会科に「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」についての調べ学習があるのをご存知でしょうか。「小学校学習指導要領」より。教科書にも「古い道具と昔の暮らし」などの章があります。

当館には毎年2月頃を中心に、周辺の小学校三・四年生の皆さんが多く見学に訪れます。博物館には昔の羽釜・火鉢・氷冷蔵庫・炭火アイロンなど、衣食住に関わる昔の道具もたくさん収蔵されていますので、これ



氷冷蔵庫

らを活かした体験メニュー「昔の道具体験」を実施しています。1回につき30分程度、30人以下のプログラムですが、実際に児童の皆

さんにも実物に触れてもらい、昔の道具の使い方や、どんな工夫があるかを調べて、いろいろなことに気付いてもらうことが目的です。



石うす体験できな粉作り

たくさんある道具の中でも一番人気なのは「石うす体験」。子どもたち自身に石うすを回してもらい、大豆をひいて、きな粉を作ります。節分の豆まきでおなじみの炒り大豆を入れてぐるぐる回すと、だんだんと香ばしい、良い香りが…。この香りで多くの子どもたちが気付き、あちこちで「きな粉だ!」「おいしそう!」と歓声が上がります。

また、展示室では例年冬に、昔のくらしについてのポイント展を開催しています。昨年度は「明かりと暖房」、今年度は「洗たくとアイロンがけ」と、年ごとに衣・食・住の内容を交替で開催していますので、展示見学だけでも昔の道具の調べ学習が出来るようになっていきます。ご興味のある学校や団体の方は当館学芸課学習支援班までお気軽にお問い合わせください。

南極の自然と南極観測



夏には南極！南極の氷にタッチ！！

暑い夏に極寒の南極を体験してみませんか。本物の南極の氷にさわることができます。夏には日本と季節が反対の真冬の南極観測隊に思いをはせることができるのではないのでしょうか。

元南極観測隊員で、地理学者の小元久仁夫氏（南相馬市出身、元日本大学教授）から様々な南極関連の資料が当館に寄託されています。これらの資料を中心として、幅広く“南極”を紹介する展示会です。ペンギンをはじめとした生き物、氷河、南極の岩石や化石、オーロラなど南極に特有の自然ばかりでなく、寒冷な南極で観測をするための装備など人間との関わりなどについても展示紹介する予定です。

地球温暖化と南極の氷の増減が取りざたされている今、南極の真の姿に一步近づいてみませんか。

会期 平成28年7月16日（土）～8月21日（日）

トピックス

テーマ展 五幅対に見る絵師

江戸時代後期の絵師・大須賀清光の編んだ「若松緑高名五幅対」には「和画」「唐画」「海内雷名」の区分があります。「和画」には、盤里（奥山盤里）・盤谷（秋原盤谷）・晴水（永峰晴水）・新遠（棚木信遠）・皎齋（大須賀清光）。「唐画」には、秋琴（浦上秋琴）・香齋（佐藤香齋）・香村（遠藤香村）・暁邸（星暁邸）・牛渚（塩田牛渚）。「海内雷名」には、絵師として佐竹永海・法橋観山らの絵師の名があげられています。

作品や履歴が詳しく伝わる者もあれば、そうでない者もありますが、今回のテーマ展では、企画展「大須賀清光の屏風絵と番付」に関連して当館が収蔵している関連絵師・浦上秋琴・遠藤香村・塩田牛渚・佐竹永海らの作品を展示します。

企画展とあわせて「五幅対」にランクインした会津の人気絵師たちの作品をご覧ください。



佐竹永海「山水図屏風」左隻 慶応3年（1867）



遠藤香村「七里ヶ浜図」江戸時代後期（19世紀）



塩田牛渚「歳寒三友図」文久3年（1863）

開館30周年記念企画展

幕末！若松！喜知松？

大須賀清光の屏風絵と番付

会期 平成28年4月23日(土)～6月12日(日)
休館日 月曜日(5月2日は開館いたしません)
会場 福島県立博物館企画展示室

【記念講演会】(申込み不要、参加無料)

江戸城登城風景図屏風をよみとく

江戸の名所下馬先とは何か！

日時 6月12日(日) 13時30分～15時
講師 学習院女子大学教授 岩淵令治氏
会場 講堂

【関連イベント】(すべて申込み不要、無料)

めぐせ江戸！清光の絵で道中すごろく

日時 5月3日(火・祝) (こども向け/参加型) ※途中参加可
10時30分～12時、13時30分～15時
会場 体験学習室

みんなで仕上げる清光作品

日時 5月4日(水・祝) 13時30分～15時 (こども向け/参加型)
会場 実習室

江戸の番付で良妻チェック

日時 5月15日(日) 13時30分～14時30分 (一般向け/参加型)
講師 学芸員 阿部綾子
会場 実習室

清光の挿絵で読む！

メイドイン会津の教訓書

日時 5月28日(土) 13時30分～14時30分 (一般向け/聴講型)
講師 学芸員 阿部綾子
会場 講堂

【展示解説会】(申込み不要、要企画展観覧料)

日時 4月23日(土) 10時～11時
5月15日(日) 14時30分～15時30分 ※イベント終了後の開催
5月28日(土) 14時30分～15時30分 ※イベント終了後の開催
6月11日(土) 13時30分～14時30分

ギャラリートーク・交流会

「はにわ大王が案内するギャラリートーク」

親子で楽しむふくしまの歴史①
日時 4月9日(土) 14時～15時
講師 学芸員 荒木隆
会場 総合「原始」 申込み不要 常設展料金

「親子で楽しむふくしまの歴史②」

日時 6月11日(土) 14時～15時
講師 学芸員 荒木隆
会場 総合「原始」 申込み不要 常設展料金

【交流会】

○「サロンド考古学①」

日時 5月14日(土) 14時～15時
講師 学芸員 荒木隆
会場 福島県立博物館レストラン 申込み不要
*参加料はありませんが各自メニューからお好きなものをご注文ください

講座・実演

【館長講座】

日時 ①4月21日(木) 13時30分～14時30分
②5月19日(木) 13時30分～14時30分
③6月16日(木) 13時30分～14時30分
講師 館長 赤坂憲雄 会場 講堂 無料

【実技講座】

○「唐人風ってなんだ？ふかふか唐人風をつくろう」

日時 4月30日(土) 13時30分～16時
講師 山形大学 志保研究室 齋藤歩美氏
会場 実習室 *要申込み無料 定員 保護者と子供の20組

○「須賀川の絵のぼり・小旗を作ろう」

日時 5月5日(木・祝) 13時30分～15時
講師 伝統技術保持者 大野青峯氏 大野久子氏
会場 体験学習室 *要申込み定員15名 参加費1000円

【保存科学講座】

○「高校生向け 文化財保存のための科学」

日時 5月21日(土) 13時30分～15時
講師 学芸員 杉崎佐保恵
会場 実習室 *要申込み 定員10名 無料

【実演】

○「大堀相馬焼の絵付け」

日時 6月19日(日) 13時30分～15時
実演 大堀相馬焼窯元 休閑窯 半谷みどり氏
会場 体験学習室 無料

テーマ展

○ふるさとの考古学6「飯館村」遺跡探訪

会期 4月1日(金)～平成29年5月14日(日)
会場 部門「考古」

○「五幅対に見る絵師」

会期 4月16日(土)～6月19日(日) 会場 部門「歴史・美術」

ポイント展

*常設展でご覧いただけます

○「会津年中行事屏風」

会期 4月22日(金)～6月19日(日) 会場 部門「民俗」

○「落下傘で作った着物」

会期 6月22日(水)～8月17日(水) 会場 部門「民俗」

後援事業・シンポジウム

○「奈良と会津1200年の絆」

日時 4月24日(日) 9時30分～12時
【講演】 講師 薬師寺僧侶・喜光寺副住職 高次喜勝氏
【パネルディスカッション】
パネラー 大和川酒造店会長 会津電力社長 佐藤彌右衛門氏
帝塚山大学教授 前奈良国立博物館学芸部長 西山厚氏
館長 赤坂憲雄

開館30周年記念 春のイベント

福島県立博物館は今年で開館30周年を迎えます
春のイベント盛りだくさん！
けんばくバックヤードツアー
のぞいてみよう!!けんばくの裏側①
日時 4月16日(土) 14時～15時
会場 本館収蔵庫など 講師 学芸員 **要申込み**

けんばくバックヤードツアー
のぞいてみよう!!けんばくの裏側②
日時 5月7日(土) 17時30分～19時
会場 総合展示室 講師 学芸員 **要申込み**

けんばくバックヤードツアー
のぞいてみよう!!けんばくの裏側③
日時 6月18日(土) 14時～15時
会場 本館収蔵庫など 講師 学芸員 **要申込み**

けんばくバックヤードツアー
のぞいてみよう!!けんばくの裏側④
日時 6月18日(土) 14時～15時
会場 本館収蔵庫など 講師 学芸員 **要申込み**

けんばくバックヤードツアー
のぞいてみよう!!けんばくの裏側⑤
日時 6月18日(土) 14時～15時
会場 本館収蔵庫など 講師 学芸員 **要申込み**

○要申込みの行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
○その他、行事等の詳細に関しましては月行事予定やホームページをご覧ください。
○常設展観覧料 *一般・大学生は270円 (20名以上の団体の場合 210円) *高校生以下は無料でご覧いただけます。
○4月～6月の休館日
4月4日(月) 4月11日(月) 4月18日(月) 4月25日(月)
5月9日(月) 5月16日(月) 5月23日(月) 5月30日(月)
6月6日(月) 6月13日(月) 6月20日(月) 6月27日(火) 6月27日(月)
○常設展無料の日 5月5日(木・祝) こどもの日は常設展無料となります



●お問い合わせ先 **福島県立博物館** ~Fukushima Museum~
ホームページ <http://www.general-museum.fks.ed.jp/>
メールアドレス netmaster@general-museum.fks.ed.jp
TEL 0242(28)6000 FAX 0242(28)5986
〒965-0807 会津若松市城東町1-25